

# 東方三眼録

残念美人布教教会関東支部支部長斎  
藤宰慈

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

少食で草食な私にしては珍しく又焼麺を食べたくなくなり、最寄りのラーメン屋『極楽浄土√地霊殿』まで行って注文し、完食したまでは良かったんですけどよね。

私が会計を済ませる途中だったんですが、後ろが騒がしいと思い振り替えると……コンクリートミキサー車が重力を振り切って、まるで磁石に吸い付く砂鉄のように空を薙いで私へ向かってふっ飛んで来てました。

それが最後の記憶でしたね。

——転生なさい。特典はこっちで決めるから、早く行きなさい！今すぐ！！

と、訳のわからない声が聞こえたと思ったら、古明地さとりさんになってまし



# 目次

………	覚妖怪って死亡フラグじゃない
ですか	1

・ ・ ・ ・ 覚妖怪って死亡フラグじゃないですか

はあ、一頻り絶望したのでいい加減気を持ち直しましょう

私は覚妖怪として発生し、具現化した古明地さとりと云う存在で、私の妹は古明地こいしという瞳を閉ざした覚り妖怪だという設定でしたが、目の前にいるこいしを見るからにはまだ瞳を閉ざしていないようですし、どうにかしなくてははいけませんね。妹が心を閉ざしてグレたなんてことになったら、私はその原因の輩を消さなくてははいけませんからね

天の声(※二度と出番はありません)  
〔それはシスコンと言う〕

シスコン？ 何を言ってるんですか貴女は？ 姉が妹を守るの是一般常識ですよ

「お姉ちゃん、大丈夫?？」

「はい、大丈夫です。こいしは何か不都合はありませんか?」

何やらこいしが目をビー玉の様に真ん丸に開いて『きよとん』と擬音が聞こえそうな顔をしています。私は何か可笑しなことを言ったのでしょうか?」

「『こいし』って、私のこと?」

「はい。私が『さとり』で、貴女が『こいし』です。それから、私達は姉妹ですから、わ

かりやすいように共通した呼び名として名前の前に『古明地』と入れます。どうでしょうか？ 気に入りませんか？」

「ううん！ すつごく、すつごく良いと思うよ!!」

よかったです。これが断られてしまったら、私が生前に書いたマイナーな漫画（※結構有名な作品でした）の『マジカル☆ユニクル』から適当にとる予定でしたから、私のような喪女（※むしろ真逆でした）が考えた名前よりも、誉れ高きZON殿の考えた名前の方が幾億万倍もマシですからね

それにしても、私の口八丁が何時にも増してキレがありますね。やはり、古明地さとりと云う存在に為ったからなのでしょうか？ 彼女は常にジト目で無表情がデフォルトで、人によっては皮肉屋だったり、照れ屋だったりと表現は変わりますが、私は基本的にデフォルトと同じようですが、確りと感情表現が出来るようですね

——特典を表記します

——特典1 古明地さとりに “心を読む程度の能力” に加え “弾く程度の能力” を付与。古明地こいしに “心を読む程度の能力” に加えて “無意識を操る程度の能力” を付与。了

——特典2 古明地さとりを持ち主として 『マスタ全典』オーナーを授与。了

——特典3 古明地さとりを持ち主として 『アカシックレコード全典』※トランシエントを授与。了

『トラウム深山』ユートピアを授与。了

(※ドイツ語の読み 日本語訳) <> 儂き夢の理想郷)

——特典4 古明地さとりを<sup>オーナー</sup>持ち主として『地霊殿』を授与。了

は？ あの駄女神は『全典』<sup>アカシックレコード</sup>を授与とか何やってるんですか？ アレは『マジカル

☆ユニクル』の主人公である『一鷺』<sup>ひとさぎ</sup>のライバルキャラである『松房』<sup>まつぶさ</sup>アヤメ』

の魔法礼装で、書いた自分で言うのもアレですけど、彼女がアホの子じゃなかつたら主

人公は出会い頭で粉塵に帰するのが確定しているような「大魔法儀式礼装」という、正し

くワンオフな礼装で、彼女以外は魔力量的な意味で使えない様な化け物並みの燃費を誇

る魔道具なんですよ？ しかも、この世の過去・現在・未来の全てを記したオーバース

ペックな魔導書な癖して、見た目がライトノベルと同じ厚さと大きさという設定で、

『全典』<sup>アカシックレコード</sup>ご都合主義の塊のような物で、思考を読み取り行使したいカテゴリーの魔法

を抽出し、最適な魔法のページを自動で開いてくれるナビゲーションシステムが搭載さ

れていて、魔法を行使する為のトリガーは(膨大な)魔力を込めるだけというチート性

能に加えて、意識の有無に関わらず害意ある干渉に対して自動的に反撃を繰り出す様々

な意味での鬼畜本で、普段は異空間に控えているという設定で、出したい時に出せるよ

うになつてるっていう設定でしたね。 . . . .

まあ、所々省いている設定もありますが、結論を言うのなら、「専門家だろうと所持しているだけで死ぬ、書籍型で多目的利用可能な大規模殲滅兵器」です

あの駄女神は一体何をやっているんですか？ 私を殺す気ですか？

「お姉ちゃん？」

これはうっかりでした。駄女神に対しての憤りで、最愛の妹への配慮が足りなかったですね

いつまでも外に滞在するのは危険ですので、駄女神からの頂き物を有効活用させて戴きましよう

「私は大丈夫ですから、少し目を瞑って貰えますか？」

「ん、わかった！」

それでは、私達の住まうべき場所へいきましようか